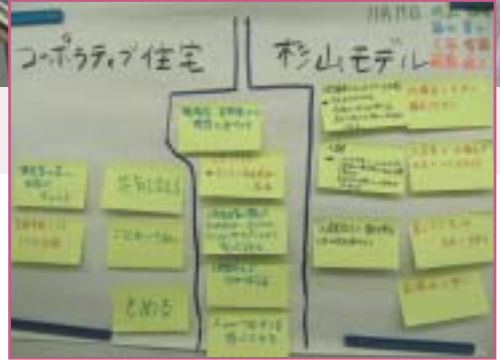


授業概要

少子高齢化が急速に進む中、身近な地域居住環境をいかにして保全、改善していくかが大きなテーマとなっています。

この授業では、「居住環境を形成していく主体は誰なのか」、「都市形成の歴史」、そして、「現在の都市計画や地域居住環境はどのような仕組みで形成されていくのか」について学びます。まちづくりを担うNPOへの聞き取り調査も行います。

Welcome to 授業



学生から



日本がこれから進んでいく少子高齢化の中で、どういうまちづくりをしていかなければいけないかを考えさせられました。例えば、都市を集約化することによって、みんなが集まりやすい、アクセスしやすいまちづくりの工夫を学びました。4月から教師になりますが、NPOのボランティアに参加して、実際に子どもたちの声を聞くことができたことがためになりました。学校とNPO、地域、家庭が連携していくことの大切さに気づくことができました。

学校教育教員養成課程4年 吉田 三晴

まちに出て、自ら歩いて、そのまちの歴史や都市伝説も含めて居住環境について学ぶ授業が印象に残っています。今まで知らなかったところに目が向けられ、身の周りのことに興味を持てるようになりました。まちづくりに関わっているNPOの方への聞き取り調査では、そのまちで幸せに住み続けるための課題は何か、地域住民に必要なとされているものは何かということを実体験として学ぶことができました。人任せではなく、一市民としてまちづくりに関わっていく意味が分かってきました。

総合人間形成課程2年 吉澤 彰平



陣内先生は、いろいろなまちづくりのプロジェクトに関わっていますが、そのプロジェクトに私自身、関わったことがとてもためになりました。自分とまちの環境というものは結びついていると思うので、自分の住むまちの地域性やまちづくりの取り組みなどを深く知っておくことは重要なことです。将来、地域社会から子どもを支援していこうというビジョンがあるので、いま学んでいることが生かせると思います。

総合人間形成課程2年 手塚 祐奈



教員から

いま、地域の居住環境を維持していく担い手がどんどん減っています。コミュニティ、人のつながりが希薄になっていることと併せて、人口の減少と超高齢社会になっていることが背景にあります。身の回りの環境を誰が維持していくのか。若い人たちは「まちづくりは自分たちとは関係ないこと」と思うかもしれませんが、超高齢で少子化の中では、学生を含め若い人たちが頑張らないといけないということです。

個々人で温度差はありますが、真剣に取り組んでいる学生が多いと感じています。おそらく、「3.11」の影響があるのではないかと思います。あの災害のあと、まちづくりやコミュニティ、人のつながりというものが重要であるということがメディアで盛んに報道されました。あれから、意識が随分変わってきています。熱心にまちづくりのことを考える若い人たちや、地域の課題に向き合おうとする学生は確実に増えてきています。

自分たちの住む地域の居住環境について他人任せにしては、決して良い地域にはならない。良い地域にしていかなければ、自分たちもハッピーになれないわけです。この授業で、自らが問題意識を持って関わる主体であることに気づいてほしいと思っています。

陣内 雄次 教授

